

方 面	中隊長等集合訓練	(1面)
1 師 団	春季演習場定期整備	(2面)
12 旅 団	春季演習場定期整備	(3面)
1 施設団	曹 候 2 次試験	(4面)
関東補処	若年事務官等教育	(4面)
混 成 団	創立記念行事	(5面)



令和7年6月25日 第1085号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙

発行所：方面総監部広報室
住 所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

中隊長等が集合訓練

コミュニケーション能力向上の部外講話も

方面隊は5月13日・14日の両日、朝霞駐屯地において方面直轄部隊の中隊長等112人を対象とし、令和7年度第1回方面直轄部隊等中隊長等集

陸上自衛隊
東部方面隊
EAST



総監訓話



コミュニケーション能力向上に係る部外講話

実施している。総監は訓話において「東部方面隊は首都防衛の要であり、中でも中隊長は、最も重要な第一線の職責を担っている。諸官等の任務遂行が、東部方面隊の任務遂行、ひいては我が国防衛の成否に直結するとの認識の下、誇りをもって任務に邁進してもらいたい」と語り、

その企図を徹底した。コミュニケーション能力向上に係る部外講話では、指導とパワハラの違い、心理的安全性及びコミュニケーションについて実習を交えた教育を受けることにより、部隊・隊員を直接指揮・指導する中隊長等としての指導能力を向上させた。

今訓練課目を通じ、各参加者は中隊長等としての知識及び職能の総合的な向上を図る等、所望の目的を達成して訓練は終了した。

東方オピニオンリーダー等

相馬原・新発田を研修

方面隊は5月20日・21日の両日、オピニオンリーダー等に対し、方面区内研修を実施した。本研修は東部方面隊オピニオンリーダー等に東部方面隊に所在する駐屯地を研修した。

相馬原駐屯地、新発田駐屯地を研修した。相馬原駐屯地では第12旅団の概況説明、旅団長表敬、装備品展示、航空機搭乗体験、CH-47による訓練展示を、新発田



CH-47の訓練展示



白壁兵舎広報史料館見学

駐屯地では白壁兵舎広報史料館見学、訓練展示、装備品展示を行った。新発田駐屯地の訓練展示では、身体用のパトローを使用した臨場感のある訓練の様子を見学し、装備品展示では小火器の展示及び軽雪上車等の研修を行った。

研修参加者からは「動きのある訓練展示を研修することができ、普段の訓練の様子を知ることができた」「我々が自衛隊の活動を発信していくことが抑止力にも繋がると思うので、発信の輪を広げていきたい」等の感想を聞くことができた。



担任官（装備部長）説示

方面隊は5月21日・22日の両日、朝霞駐屯地において、駐屯地業務隊長及び駐屯地業務担当部隊の総務部長等に対し、第1回駐屯地業務隊長等集合訓練を行った。

集合訓練において、令和6年度主要事業の成果及び、今後の反映事項、令和7年度主要事業、官用車運行管理、各種施策について認識共有を図ると

駐屯地支援能力の充実 業務隊長等が集合訓練

広報センターGWイベント 体験試乗と警務隊の装備品展示



大型車両による体験搭乗



迷彩服を着用して記念撮影

陸上自衛隊広報センターは5月3日から6日の間、GWイベントを実施した。期間中約5000人が訪れ、さまざまな体験型イベントを通じて自衛隊の魅力や活動への理解を深めた。好天に恵まれた3日間、大型車両の体験試乗が人気を集めた。試乗コースには広報センターのキャタクターが巧みに隠されており、子どもたちはキャタクターを探しながら楽しんでいった。最終日の6日はあいにくの雨模様となったが、それでも多くの来場者は雨がっぱを着て参加し、濡れながらも体験試乗を満喫していた。



広報センターHP

陸上自衛隊広報センターでは毎月1回を基準に各種イベントを計画中です。イベントの情報はホームページをご確認ください。

車両は、自衛隊車両といえはOD色というイメージを持つ来場者にとっては新鮮な驚きだったようだ。さらに迷彩服の試着体験を実施し、来場者は自衛官になりきって記念撮影を楽しむ様子が多く見られた。本イベントを通じて、来場者は自衛隊の装備や活動について理解を深め、身近に感じる機会となった。

第1師団

北富士演習場で春季定期整備

歴史と地図に残る接続経路・大型構築物の設置

師団は4月16日から25日までの間、令和7年度春季北富士演習場定期整備を担任した。本整備は東部方面隊演習場等中期整備計画に基づき、第1師団各部隊の作戦遂行能力向上を図る練武の地である北富士演習場の機能を維持・向上させるとともに、周辺住民の安全の確保及び関係部隊間の連携強化を図ることを目的に実施された。

本整備は第1普通科連隊長を整備隊長として師団隷下8個部隊、部隊訓練評価隊、東部方面特科連隊を含む計10個部隊で編成された北富士整備隊約1350人が臨んだ。

今回の整備では、歴史的にも意義ある東富士演習場への接続経路の増設、より安全な訓練環境構築のための手りゅう弾投てき場の退避壕改修、弾着地域における火災対策のための防火水槽の設置という3つの大規模整備が実施された。

また手りゅう弾投てき場の機能維持整備においては、コンクリート製品を活用した耐久性のある退避壕を整備し、より安全な環境下で訓練ができるよう整備を行った。

さらには弾着地域における野火への対策として、A及びB弾着地にそれぞれ1台ずつ防火水槽が設置され、火災発生時には初期消火活動に即座に活用可能な体制が整備された。これにより、火災の拡大を未然に防ぐだけでなく、演習場に隣接する居住地域や自然環境への延焼リスクを大幅に低減することが期待される。

その他にも対人狙撃銃射座、三角規標の補修・改修、排水設備、機動路の維持・補修、演習場全域の除草等を行い、その機能維持を図り整備任務を完了した。

演習場は国防の根幹を担う場であると同時に、地域社会の一部でもある。師団は今後も、安全な訓練環境の維持に取り組んでいく。

#1演習

作戦遂行能力の実効性を強化 各部隊の足腰を整え・鍛える

師団は5月12日から18日までの間、各部隊に訓練基盤（東・北富士演習場、朝霞訓練場等）を付与し、第1次師団演習を実施した。

ゲリラ・コマンドウ等への対処に係る訓練では、第1普通科連隊と第1飛行隊との協同により、空路潜入に引き続く建物内の掃討及び離脱の演習を実施した。

本格的陸上作戦に係る部隊訓練では、第32普通科連隊がHTC訓練参加に向けた練成を行い、特に敵警戒部隊の駆逐から敵第一線陣地への攻撃を焦点に訓練を実施した。

また第1施設大隊は、第1高射特科大隊と協同してソイルアーム（折り畳み式の箱型鋼製力ゴ棒）による掩蓋掩体構築を実施した。

各部隊は各々が計画した想定に基づき、首都機能の維持に必要な作戦遂行能力の練度向上を図り、所望の成果を収めた。

師団は今後も、首都機能の維持に必要な作戦遂行能力の実効性の強化を図っていく。



1 高大・1 施設協同による掩蓋掩体構築



1 普連レンジャー小隊と1 飛との協同による空路潜入



敵第一線陣地へと突撃する32普連



555本の樹木を伐採し、北富士演習場と東富士演習場を結ぶ接続経路を増設



大型重機によるボックスカルバートの設置



11tの貯水が可能な防火水槽を設置

誇りに思う任務

機会と応援をくれた部隊・先輩に感謝



霊峰富士の麓で測量する青柳3曹

参加見

1 施設 青柳3曹

春季北富士演習場定期整備において、はじめに測量を任せられ、不安もありましたが、実際に任務をやり遂げたことで自信を得ることができました。今回は手りゅう弾投てき場の退避壕の測量に携わり、その規模と重要性に大きなやりがいを感じました。特に、この構築物は射撃訓練を行う隊員の安全を守るものであり、自分の手でその一端を担ったことに、誇りを感じています。

ここまで成長できたのは、日頃から丁寧に指導してくれる先輩方と、貴重な経験を与えてくれた部隊のおかげであり、深く感謝しています。

頭号師団の誉 隊務優秀部隊を表彰

師団は部隊の士気高揚に資することを目的に、年度を通じて部隊の訓練・服務・検査等の隊務を総合的に評価して令和6年度隊務優秀部隊表彰を実施した。

5月19日に第1音楽隊が、部外演習活動を行い自衛隊に対する国民の理解と信頼を深める等の功績で、5月20日には第1後方支援連隊が、令和6年度物品管理・情報管理検査において合規適正な業務の推進を図り顕著な成績を収め、師団の隊務運営の質的向上に多大な貢献をした功績等で、第1通信大隊が各種検定実施率90%という高い水準で隊員各個の戦闘戦技能力の向上を図るなど健全な部隊の育成に貢献した功績等により、それぞれ師団長より表彰された。



連隊の部、第1後方支援連隊



大隊の部、第1通信大隊



隊の部、第1音楽隊

第12旅団

訓練基盤の更なる進化 演習場を定期整備

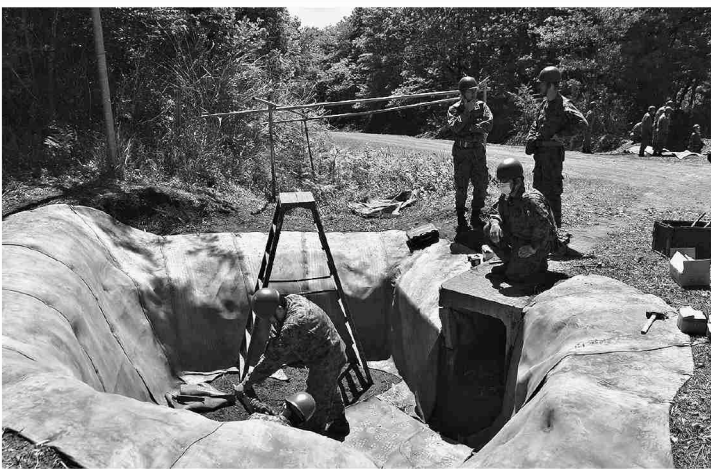
旅団は5月9日から17日までの間、相馬原、関山及び大日原演習場において、令和7年度春季演習場定期整備を行った。旅団長は「作戦としての定期整備実施にあたり、行動の実践」「安全かつ効率的・効果的な整備の推進」を要望事項に掲げ、副旅団長を関山整備隊長、第12施設隊長を相馬原整備隊長、第30普通科連隊長を大日原整備隊長に任命し、任務遂行能力向上の基礎及び維持管理に資する整備を実施した。

率・効果的な整備の推進」を要望事項に掲げ、副旅団長を関山整備隊長、第12施設隊長を相馬原整備隊長、第30普通科連隊長を大日原整備隊長に任命し、任務遂行能力向上の基礎及び維持管理に資する整備を実施した。

演習場整備は訓練部隊の運用構想に基づき、演習場の機能維持向上を目的として、緊要地形整備、爆破訓練場改修、MCV射場の整備、機動路（溜）の柵強化、各射場の補修、手りゅう弾投てき場の改修、演習境界及び防御陣地の視界確保のための除草・伐採作業等を積極的に行った。

夜間作業実施時には係留型照明ドローンの照明下、各種測量器材を使用

して測量検証を実施する等、情報通信技術（ICT）や民生品等の民間技術を積極的に活用して演習場整備の効果的かつ効率的な整備の実施を図り、実戦的訓練環境及び訓練基盤のさらなる進化を図った。



コンクリートキャンパスによる溜柵強化（相馬原）



側溝にプレスト管挿入する隊員（関山）



縮尺射場補修を行うための1トン土のう作成（大日原）



係留型照明ドローン検証（関山）



10km徒步行進（13普連）



体力測定（12後支）

頑張れ自候生

第2普通科連隊、第13普通科連隊、第30普通科連隊及び第12後方支援隊が実施中の自衛官候補生課程教育も約3カ月の期間が経過した。入隊時はあどけない様子であった彼らはひと回りもふた回りも成長し面持ちも凛々しくなった。まもなく教育を修了し自衛官に任官する日が近づいている。



防護マスクの機能を体験（2普連）



教習射撃（30普連）

歴史と文化を刻む 来場者20万人達成



来場者20万人目を祝う駐屯地司令

新発田駐屯地の白壁兵舎（館長小宮一尉）は4月22日、来館者数が20万人に達成した。史料館は明治7年に落成、フランス風建築様式と和風城郭様式を併せて建設された陸軍の兵舎で、戦後は保安隊及び自衛隊の隊舎として活用された後、新発田城址公園の隣に移築、平成26年5月11日、白壁兵舎広報史料館として開館し、駐屯地の歴史や郷土部隊の関連資料を展示している。

地域と共に新たな時代へ 町の活性化と部隊の士気向上



市中パレード（30普連）



1日駐屯地司令を務めた入隊予定者

新発田駐屯地は4月19日・20日の両日、新発田駐屯地開設72周年及び第30普通科連隊創設63周年記念行事を行った。18日駐屯地開設72周年及び第30普通科連隊創設63周年記念行事では、新発田

方協力本部の推薦を受けた入隊予定者が、一日駐屯地司令を務め、執行者として隊員の前に立った。19日は市中パレードを行い、沿道に詰めかけた約1000人の地域住民

大勢の人で賑わい大盛況であった。

75周年の節目を祝う 地域に愛され生々発展



巡閲する駐屯地司令

松本駐屯地は4月19日、国会議員等、多くの来賓及び隊員家族を迎え、駐屯地創設75周年記念行事を挙行了。晴天に恵まれた記念行事には県内外から約8400人が来場し、75年の節目を来場者と共に祝った。

執行者の駐屯地司令は記念式典において「長野県内に所在する唯一の部隊として、一層関係機関と密接に連携し、地域住民に信頼され愛される駐屯地を目指していく」と述べた。

記念行事では観閲行進、音楽演奏、滝ヶ原雲海太鼓・航空自衛隊入間修武太鼓・松本アルプス太鼓の迫力のある合同演奏が行われ、来場者から大きな拍手が送られた。

また装備品展示等の各種イベントも賑わいをみせ、盛況のうちに記念行事を終了した。

第1施設団

陸曹志す最終試験

曹候2次受験者20人集結



口述試験を受験する隊員



術科試験開始報告



術科試験（分隊教練）の様子

施設団は4月22日・23日の両日、古河駐屯地において令和7年度前期陸曹候補生等選抜2次試験を実施した。

試験を突破した20人の受験者は、2次試験において口述試験及び術科試験（分隊教練）を受験した。第5施設群394施設中隊 石崎士長は「初めての2次試験でしたが、諸先輩方のご指導を思い出しながら思い切り出し切ることができました」と自信を述べた。また第101施設器材隊中

村士長は「部隊の応援が心強く、練成以上の力を出せました。早く陸曹になって恩返ししたいです」と感想を述べた。

方面定期整備を支援

雪残る演習場にて施設力を発揮

施設団は5月9日から16日までの間、相馬原・関山演習場において、令和7年度春季相馬原・関山演習場定期整備を支援した。本整備は第12旅団が担任・実施し、施設団としては、第306施設隊を主力とするほか、団隷下部隊の一部をもって支援した。本整備にあたっては、整備基準及び設計図に基づき、演習場運用構想に合致した効果的かつ効率的な整備を推進した。特に夜間におけるドローン光を活用した測量を実施し、昼夜の制約を受けない効果・効率的な整備を推進し、1件の事故もなく方面定期整備支援任務を完遂した。



ドーザによる除雪作業（関山）



自衛隊の概要説明



救急法体験



重材料運搬体験

学校行事支援を実施

自衛隊への理解促進

施設団は4月23日、茨城県の高専学校において学校行事支援を実施した。本行事支援では、陸上

て説明を実施した。説明後、団体行動や協力することの重要性の理解を醸成するため、救急法や木材を使用した重材料運搬等を実施した。参加者からは「自衛隊がどのようなことであるのか理解が深まりました」「協力することの大切さを理解することができました」などの声を聞くことができ、陸上自衛隊、古河駐屯地に対する理解を促進することができた。



ドローン光下での測量（関山）

関東補給処

若年事務官等が識能を習得

施設研修等で知見広げる

関東補給処は4月24日、霞ヶ浦駐屯地及び朝日分屯地において若年事務官等教育を実施した。本教育は若年事務官等に対し、初級事務官等

様子や、原材料を合成する装置の説明を実施した。火器車両部では概要説明、自動車庫研修及び倉庫内における保管要領の説明、朝日燃料支処においては概要説明の後、ドラム缶の成形装置や外部洗浄装置、携行缶塗装剥

陸曹目指し2次試験

練成成果を遺憾なく発揮



号令をかける受験者

関東補給処は4月23日、霞ヶ浦駐屯地において陸曹候補生選抜第2次試験を実施した。2次試験は口述試験と術科試験からなり、1次試験を突破した各部・各支処等から集まった9人が陸曹を目指し試験に挑んだ。口述試験において受験者は、理想とする陸曹像を述べつつ陸曹昇任への思いを面接官につづけていた。

マラソン大会を支援

円滑な大会運営に寄与

霞ヶ浦駐屯地は4月20日、土浦市川口運動公園陸上競技場において開催された「かずみがうマラソン」兼国際フライ



支援に当たった隊員は大会関係者と連携を図りながら、選手団先導（写真）や審判員輸送、また給水地点での給水支援を実施した。本支援により大会運営に貢献し、地域との信頼関係の醸成を図ることができた。

古河支処で生活体験支援

参加者に自衛隊の理解深める

古河支処は4月21日、22日の両日、古河駐屯地において隊内生活体験を実施した。本体験は株式会社クボ



基本教練



重材料運搬

体験者は基本教練など慣れない動作にも真剣に取り組み、規則正しい生活、自衛隊特有の訓練体験を通じて規律や団結の重要性について理解を深めた。



自衛隊体操を披露する新隊員



式典の様子

東部方面混成団

人を繋ぐ地域を繋ぐ 創立14周年記念行事

東部方面混成団は5月17日、武山駐屯地において創立14周年記念行事を実施した。

当日はあいにくの荒天下に見舞われたため駐屯地体育館にて式典が執り行われたが、観閲部隊指揮官である副団長指揮の下、混成団各部隊は「人を繋ぐ」ことと地域との絆を構築することともに、歴史を受け継ぎ「時代を繋ぐ」こと

執行者である団長は「厳しい安全保障環境の中、『人を繋ぐ』ことで地域の皆様等との絆を構築することともに、歴史を受け継ぎ『時代を繋ぐ』こと

が、より一層必要である」と認識しており、今後も「人を繋ぐ時代を繋ぐ東部混成団」を維持・運営し、各種任務を完遂し続ける所存です」と式辞を述べた。

式典に続き披露された訓練展示では多彩な催しで招待者を魅了した。演奏支援で参加した高等

工学校吹奏楽部は、力強くも繊細な演奏で「陸軍分列行進曲」「行進曲」「凱旋」を演奏し会場を盛り上げた。第31普通科連隊「武山自衛太鼓」と高工校「桜花太鼓」のコラボ演奏では全身を震わせるような迫力のある太鼓の響きと隊員の覇気のある姿で観衆を圧倒した。引き続き大きな歓声を上げながら全力疾走で入場した第17教育大隊の新隊員による自衛隊体操では、これまでの訓練の成果を遺憾なく示し、士気の高さと鍛え抜かれた様子を披露した。

東部方面混成団 公式Xはこちら!

陸上自衛隊【東部方面混成団】公式 @EACB_takeyama

たくさんフォローお待ちしています!



執行者に敬礼を行う観閲部隊指揮官



演奏を行う高工校吹奏楽部



高工校と31普連によるコラボ太鼓演奏

女教隊 強く明るく麗しく!

女性自衛官教育隊は4月から6月までの間、女性隊員の自衛隊員課程教育を担当している。

残り1カ月となるこの時期は、訓練の集大成となる富士総合訓練に向けて、戦闘訓練等の野外科目を集約的に実施している。

残り短い期間ではあるが、彼女らがさらなる成長を遂げられるよう、教育隊の教官助教全員が愛情と熱意をもって引き続き教育と訓練に臨み、その成長を見守っている。



戦闘訓練

新隊員は入隊直後には不慣れであった集団生活にも慣れ、段階的な教育により着実に練度を積み上げるとともに、さまざまな経験を経て、互いに刺激し合い、助け合いながら、同期との絆をより



ほふく前進



行進訓練



群馬地本キャラクターだるまと記念撮影



芸能人も迷彩服を試着

学園祭は4月26日・27日、葉県千葉市において実の両日、幕張メッセ千

ドワンゴ学園磁石祭ZERO 自衛隊の認知度・親近感向上

方面隊は4月26日・27日、葉県千葉市において実の両日、幕張メッセ千

学園祭(磁石祭ZERO)に参加した。

本から29人が参加し、制服試着、缶バッジ作成、VR体験、写真パネル展示(登平島地震災害等)の他、ステージプログラム間のCM映像の放映及びドワンゴ学園が運営するネット上で、陸上幕僚監部が作成した動画(オフィスツアー、自衛官の日常)を配信するなど、学生が自衛隊に興味を示すようなさまざまな企画を行った。

また学園祭への自衛隊ブース出展に係る調整・準備・実施を通じて、N・S・R高及びZEN大学の学生・関係者との人間関係を構築し、通信制高校・大学との今後の連携強化の資を獲得することができた。

総監部人事部募集課 募集ニュース



総監挨拶



都知事挨拶



会議参加者による集合写真

また総監は「不透明で厳しい国際情勢や今後予想される首都直下型地震、南海トラフ地震等への対応のため防衛力の抜本的強化も必要であるが、一番大切なことは人材の確保であり、自衛隊及び自治体の連携は極めて重要である。また限られた人員を有効活用するという観点で、東方が全国に先駆けて取り組んでいる東京消防庁・神奈川

県警との連携は全国的にも注目を浴びており、今後、他県・他省庁等に拡大することが必要である。有用な人材を確保することは、国を守る一丁目一番地であり、本会議が明日の日本の大きな一歩となることを祈念する」と述べた。

各地本からは自衛隊の認知度を向上させた事例として、自治体主催の募集事務担当者会議(防災・PRイベント等)における、自治体と連携した広報活動の他、小学生から大学生までの幅広い学生層に対して認知度を向上させた事例や、学校と連携した総合的学習、ラーニングセッション、探求型インターンシップ、高校生災害ボランティア人材育成講習会、学生との協同プロジェクト(学生交流スペースの整備)等の学校と連携した広報活動についての発表を実施した。

都県募集連絡会議を開催 主要施策等の発表・意見交換

方面隊は5月15日、東京都庁等において令和7年度都県募集連絡会議を実施した。

各都県募集等事務主管部・課長に対し、自衛官等募集の現況等について説明して理解の向上を図るとともに、各都県の主要施策等の発表・意見交換を実施した。

会議において東京都知事は「一段と厳しさを増す国際情勢、国内でも能登半島地震をはじめとする様々な自然災害が各地で頻発している中、我が国の安全保障、災害派遣

における自衛隊の活動・存在を、国民皆が心強く感じている。我が国の安全に直結する自衛官の採用について、1都10県と自衛隊が連携して取り組んでいく必要があり、本会議を通じて多くの適質な人材が入隊に繋がることを祈念する」と述べた。

特科連隊 第2大隊及び本部中隊 北の大地で訓練検閲

特科連隊は5月26日から29日までの間、矢野別演習場における野戦特科部隊等射撃訓練の場を活用して長射程射撃練度の維持・向上を図るとともに、



轟音響くFH-70

部隊の訓練練度を評価・判定し、その進歩向上を促すことを目的として、システム通信群及び後方支援隊第306特科直接支援中隊から支援を受け第2大隊及び本部中隊の訓練検閲を実施した。

北の大地で編成完結した第2大隊及び本部中隊は、領域横断作戦環境下において任務を達成するため、敵偵察衛星やドローンの監視を努めて回避し、あらゆる状況に対応して戦場で生き残って火力戦闘任務を遂行できる能力

が必要との認識のもと、実戦的な射距離において、健在性を保持しつつ火力戦闘任務を完遂した。この間、各級指揮官、各隊員及び各部隊が自ら為すべき基礎動作及び基本的行動を過酷な状況下においても妥協せずに継続し、あらゆる状況に柔軟に対応し、任務を遂行できる一定の練度を保持していることを確認した。

特科連隊は方面隊火力の骨幹部隊として強靱な東部方面隊の創造に寄与するため、今回の訓練で得た教訓・成果を踏まえ、引き続きあらゆる任務に即動し、持続力をもってこれを完遂できるよう日々練成に励んでいく。

航空隊 中隊等野外行動の訓練検閲 対空掩護任務を完遂

ヘリコプター隊は5月21日、都庁屋上緊急離着陸場においてヘリコプター隊の訓練を行った。



都庁屋上緊急離着陸場に着陸するUH-2

訓練は首都直下型地震対策における任務の実効性を向上させることもに、新機種（UH-2）の戦力化を推進させ、災害対処能力の向上を図る目的で行った。

訓練では風等を考慮した進入方向の選定、チェックリストに基づく手順の実施を着眼とし、3回の離着陸を行った。当日、都庁職員の案内の下、都庁屋上緊急離着陸場に安全係を配置し、事前に周囲の安全を確認、無線通信によりUH-2操縦士と

空地の連携を図った。またヘリコプターが一度上空を通過し、周辺障害物を偵察、飛行経路及び進入離脱要領を確認した。離着陸の際は危険要因として、ビル風等による離着陸時の機体不安定、過大操作に伴う制限超過、他機とのニアミスなどがあるが、処置対策を考慮しつつ訓練を行った。その後、第12ヘリコプター隊（UH-60JA）の離着陸訓練を研修して機体特性の違いなどを確認した。航空隊は災害対処能力を向上させるとともに防災関係機関と連携を強化し、災害発生時に迅速かつ効果的な対応ができるよう準備していく。

後支隊 後方支援隊統制訓練を実施 事態対処の認識を統一

後方支援隊は5月19日から20日の間、朝霞駐屯地において隷下18個部隊を参集し、令和7年度第1回後方支援隊統制訓練を実施した。

本訓練では住民混在下における車両回収、救急法普及教育及び格闘普及教育を訓練科目として実施し、各種事態対処能力の向上を図った。



市街地を想定した車両回収訓練（不審者拘束）



救急法普及教育



格闘普及教育

後方支援隊は任務遂行能力の向上のため、今回の訓練成果を踏まえた教育訓練を引き続き実施し、後方支援隊全体の練度向上に努めていく。

格闘普及教育では、部隊格闘指導官及び各部隊基幹要員に対し、じ後の格闘練成及び検定実施の際に必要な指導法について実習形式による教育を実施し、後支隊の指導官及び各部隊基幹要員の認識の統一を図った。

また20日については、訓練全体を振り返り、検討会を実施して、各部隊の考え方等について討論し、訓練を終了した。

シ通群 日々の練成成果を発揮して 曹候2次試験に挑戦

東部方面システム通信群は5月12日から14日までの間、朝霞駐屯地において令和7年度前期一般



分隊長として分隊員を矯正・指導する受験者

陸曹候補生入校予定者選考及び第148期陸曹候補生（女性自衛官第108期）選抜2次試験を実施した。

1次試験を合格した受験者8人は、日々の訓練・演習等に参加しつつ限られた時間を有効に活用して練成を行い、受験準備を万全にし、試験では終始やる気に満ち溢れ、適度な緊張感を保持して真摯に臨んでいた。

体力検定では日々の練成成果を発揮し最後まで諦めない強い気持ちと、応援に駆け付けた隊員らの声援を力に換えて自分

訓練所感

東部方面衛生隊 第102野外病院隊 松本樹里3等陸曹



小隊訓練検閲に参加して

私は22年間民間の病院で看護師として勤務したのち、令和6年10月に第1期公募技術陸曹として入隊し約3か月間、第117教育大隊での教育を受け、東部方面衛生隊第102野外病院隊へ配属されました。

衛生隊は1都10県における衛生支援全般を担い、その中でも私の所属する野外病院隊は野外病院を開設運営し、方面隊諸部隊において発生した患者の治療を実施することを任務としています。

令和7年2月、衛生救護陸曹として小隊検閲を受閲しました。入隊前は排泄の介助をしなければならぬ状況が付与された際に、経験のない陸士に必要物品や介助時に配慮すべき点などを指示し、円滑な業務運営に寄与できました。また、劇薬の取扱いについては、法や規則に基づいて

隊前、看護師として病院で勤務した経験を生かし、検閲に向けて小隊長の計画のもと教育を計画・実施しました。特に実務経験のない衛生救護陸曹（准看護師）や陸士へ看護技術、観察、記録の書き方等を教育することで知識や技術の向上に努めました。

検閲中は排泄の介助をしなければならぬ状況が付与された際に、経験のない陸士に必要物品や介助時に配慮すべき点などを指示し、円滑な業務運営に寄与できました。また、劇薬の取扱いについては、法や規則に基づいて

口述試験では緊張した面持ちではあったが、面接官の質問に対し、自身の熱い思い、陸曹昇任への意気込み、自分が思い描く理想の陸曹についてしっかりと口調で自信を持って答えていた。試験を終えた受験者は「日々の業務・訓練等多忙な中、2次試験受験に

て実施する必要があることを説明し、触れる機会が少ない隊員の練度向上ができました。一般の病院とは違い、限られた資器材の中で実施することに戸惑いもありましたが、臨床経験のある自分が一隊員として看護技術を実践するだけではなく、指導的な立場でフォローすることが小隊の技術向上に繋がることを実感することができました。

静岡地本

1万6千人にPR J1公式戦で自衛隊コラボデー

自衛隊静岡地方協力本部は4月20日、I・A・Iスタジアム日本平(静岡市)で行われたJ1リーグ清水エスパルス対アビスパ福岡戦で広報活動を行った。

この日は1万6000人を超えるサポーターが

詰めかけ、会場は試合開始前から熱気に包まれた。静岡地本は第34普通科連隊とともに会場駐車場に広報ブースを開設し、軽装甲機動車などの車両展示、災害派遣パネル展示、迷彩服試着体験、南極の水体験、子ども向

またエスパルスが自衛隊コラボ企画として、陸海空の迷彩服を着た選手3人の巨大パネルの設置や限定ポストカード配布を行い、サポーターは迷彩服を試着してパネルと一緒に写真を撮るなど、

この日しかできない体験を満喫していた。試合開始前には、空自第11飛行教育団(焼津市)のT-7初等練習機2機がスタジアム上空を飛行した。スタジアムの巨大スクリーンでは自衛隊紹介動画を流し、アナウンスでも自衛隊をアピールした。



ピッチに登場した隊員と静岡地本キャラクターしずぽん

この日しかできない体験を満喫していた。試合開始前には、空自第11飛行教育団(焼津市)のT-7初等練習機2機がスタジアム上空を飛行した。スタジアムの巨大スクリーンでは自衛隊紹介動画を流し、アナウンスでも自衛隊をアピールした。

ハーフタイムにはピッチに静岡地本マスケットキャラクター「しずぽん」と自衛官が登場、手を振ったり、エスパルスのキャラクター「パルちゃん」と一緒に写真撮影に臨んだりして、観客席にアピールした。

新潟地本

イベントシーズン到来 県内各地で広報活動

自衛隊新潟地方協力本部はゴールデンウィーク期間中、デンカビッグスワンスタジアム(新潟市)において「あそびエスタ2025」にそれぞれ参加し、車両展示・制服試着などの広報活動を実施した。



隊員と記念撮影

GW期間中ということもあり、各会場とも大勢の来場者でにぎわった。とりわけ新潟市の中心地である万代シティで行われた「アーバンキッズパーク」では、普段近くで見る機会が少ない自衛隊の車両を楽しむにしていたという来場者や、制服試着の順番を待つ子供たちで行列ができ、皆はじけるような笑顔を見せ写真撮影を楽しんでいた。



広報官による自衛隊の制度説明

新潟地本は今後ますますまなイベントに参加し、魅力的な広報活動を行い、自衛隊に対する理解を深め、親近感を育んでいく。

神奈川地本

大和市民まつりで ふれあい広報を実施

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所は5月10日・11日の両日、大和市で開催された第48回大和市民まつりにおいて広報活動を実施した。

10日は雨模様となり広報活動も規模を縮小しての実施となったが、11日は晴天となり、第4施設群の支援による1/2トトラックの車両展示のほか、ちびっ子迷彩服試着や災害派遣パネル展示、募集相談コーナー等による広報活動を実施し、多くの地域住民でにぎわった。

車両展示では老若男女を問わず「かっこいい」「乗ってみたい」など日頃見ることでない車への興味が上がっており、ちびっ子迷彩服試着では、子供たちが迷彩服姿で記念撮影を行うなど、

厚木募集案内所は今後も地域のイベントを通じて地域に根ざした広報活動に努めていく。



神奈川地本キャラクターたまとの記念撮影

ある！ある！自衛隊

byともえ



陸海空の迷彩服を着たエスパルス選手の巨大パネル

栃木地本

ラジオ出演でイベント告知 CRT栃木放送に出演



ラジオ出演の様子

自衛隊栃木地方協力本部は5月11日、CRT栃木放送「10+（てんぷらす）わいわい情報局！」にゲストとして出演し、栃木地本主催のイベント「自衛隊グリーンフェスタ2025」を周知した。

番組には広報室長及び広報係長が出演し、イベントについての詳細を説明し、パーソナリティの

埼玉地本

年度開始にあたり 決意新たに出陣式



達磨に目入れをする本部長

自衛隊埼玉地方協力本部は4月22日、年度の開始にあたり、任務完了の玉地本の飛躍を願うことを目的として「出陣式」

を実施した。まず令和6年度、埼玉地本を見守ってくれた達磨に1年間の感謝を込めて達磨の目入れを行った。

引き続き各課長及び各地域事務所長等が新年度に向け、決意・目標を述べた後、今年度の新たな祈願達磨に目入れ、開眼させた。



にぎわった募集相談コーナー

前任 最上級曹長

「心理的安全性」
第2普通科連隊
遠藤 正廣 准陸尉

令和6年8月1日付
南部の防衛警備及び災害
で、第6代第2普通科連
隊最先任上級曹長を拝命
した遠藤准尉です。
第12旅団は全国唯一の
空中機動性を高めた旅団
であり、2普連は新潟県

組織にするために大切な
ことは、最近よく耳にす
る「心理的安全性」の確
保だと思います。皆さ
んも部隊での教育など
聞いたことがあると思い
ます。この心理的安全性
とは「対人リスクの不安

私が若い頃、先輩や上
司に質問や確認をすると
「そんなことも分からな
いのか」とか「それぐら
いのこともできないの
か」等と言われ委縮して
しまい、気軽に意見を言
えない状態で心理的安全
性が低い環境でした。そ
のような環境だとどうな
るのかというと、隊員は
不安の中で勤務するた
め、発言・確認及び意見
具申をしなくなり情報共
有や問題解決が困難にな
り組織のパフォーマンス
が低下します。逆に心理

令和7年度オビニオン
リーダー会会長を仰せつ
かっております。倉持智
明と申します。
令和4年4月からオビ
ニオンリーダーの委嘱を
受け、それから各地の駐
屯地を巡り、さまざまな
研修を受講いたしました

中)の司令部に入ったと
きは、ものすごい緊迫感
で話すとすらできませ
んでした。その後、方面
外研修では北部方面隊第
7師団の庄巻の戦車競技
会、西部方面隊宮古島U
H-60JA事故現場での
殉職隊員への参拝、不発
弾処理研修、東北方面隊
では青森駐屯地、八甲田
山雪中行軍遭難資料館な
どを研修いたしました。
また東部方面内研修の三
宿研修では衛生隊員の真
剣そのものの救助訓練を
受講いたしました。他に
も、小平法務シンポジウ
ムにて戦争の定義やルー
ルについての講義では改
めて見識を深めることが
できました。どこの駐屯
地の訓練もたゆまぬ厳し
いものであるからこそ、
日本の平和が維持できて
いるのだと痛感いたしま
した。
ある研修で幹部OBの
「自衛隊の存在意義は、
抑止力である」という言
葉が非常に印象に残って
おります。オビニオンリ
ーダーの研修を通じて、
日々の厳しい訓練がある
からこそ、抑止力につな
がっていることが理解で
きました。私もオビニオ
ンリーダー4年目になり
オビニオンリーダーの役
割とは、この厳しい訓練
をSNS等で情報発信
し、あらゆる人国内外
に知ってもらうことを考
えております。
微力ではございます
が、私たちオビニオンリ
ーダーの情報発信が抑止
力につながるように今後
とも努めてまいります。
最後に日夜国民のため
に厳しい訓練を行っている
自衛隊に感謝申し上げ
、皆様のご健康で活躍
を心よりお祈り申し上げ
ます。



「目標に向かって」 女性自衛官教育隊 倉光 春花 3等陸曹

今月のフェアレディは
女性自衛官教育隊(朝霞)
に所属する倉光3曹で

す。熊本県熊本市出身の
倉光3曹は令和4年3月
に西方特科連隊から女性
自衛官教育隊に異動とな
り、現在助教として職務
に精励しています。
Q 自衛隊に入隊したき
っかけは？
東日本大震災で自衛隊
の活動に感銘を受け、人
のために働ける仕事に就
きたいと思い入隊しまし
た。
Q 現在の職種とその職
責は？
種を希望した理由は？
野戦特科です。戦闘職
種でF・H・70がかつこ
かったこと、新隊員前
期の班長と一緒に勤務し
たかったからです。
Q 普段行っている業務
とその業務の魅力は？
新隊員課程教育及び陸
曹候補生課程教育におい
て、助教として勤務して
います。被教育者の成長
を一番近くで見ることが
できるとともに、人に教

える立場として、自分自
身も常に学ぶ姿勢を持っ
て教育に励むことができ
るからです。
Q モットーは？
何事にも努力をするこ
とです。全てが結果に繋
がった訳ではありません
が、目標に向かって必ず
努力をするようにしてい
ます。
Q 休日は何をして過ご
していますか？
身体を動かすことが好
きなため、ランニングや
筋力トレーニングをして
います。最近ではカフェ
に行って苦手でコーヒーを
美味しく飲む訓練をして
います。
Q 今後チャレンジした
いことは？
レンジャー隊員になる
ことです。過酷な挑戦に
なるとは思いますが、性別
の壁を越えて自分の限界
に挑戦し、女性隊員や教
え子へ勇気を与えられる
人になりたいと強く思っ
ています。

今月の東方男児は第12
施設隊所属の駒澤3曹で
す。駒澤3曹は新潟県村

女性自衛官教育隊



東方男児 「日々成長」 第12施設隊 駒澤 俊輔 3等陸曹



Q モットーは？
日々成長です。何事に
も挑戦し、失敗してもレ
ンジャー隊員としての不
屈の精神で困難を乗り越
え成長していきます。
Q 編集後記
今回は6月に関する豆知識を紹介しま
す。
○ 雨の正しい正体は？
梅雨時期によく感じるあの「雨」にお
い。実は植物や土壌に住むバクテリア
が作り出す「ゲオスミン」という物質によるもの
だそう。雨が降って土に落ちると空気中に広
がり、私たちは「懐かしいにおい」と感じます。
○ 6月に祝日がないのは日本だけ？
日本には6月に国民の休日がありません。実は
これはかなり珍しく、他国では学校の長期休暇や
記念日がある国があります。だからこそ、日本の
6月は「しっかりと働く月」なんて言われることも
あるそうです。
○ 半夏生(はんげしょう)ってなに？
夏至から数えて11日目あたりに訪れる「半夏
生」は、農作業を終る目安の日であり、昔は「こ
の日以降に田植えをすると実りが悪くなる」とさ
れ、地域によってはこの日を境に農作業を終えて
休む風習もあったそうです。
皆さん、知っている知識はありましたか？
夏本番を迎えますが、体調(熱中症)に気をつけ
て、訓練・業務に励みましょう。